

多言語の環境をチャンスに

ふたつ以上の言語に常に接する環境で学ぶ子どもたちを
どうサポートするか



両親にとって重要なこと

世界には多言語の環境の中で生活している人々が沢山おり、子どもたちはそのような環境でも問題なく学ぶことができます。新たな言語を学ぶことは、早期であればあるほど容易です。多数の言語を使用できるということは学業、就業の面でもプラスです。この言語習得において、両親のサポートは重要であり、そのためにも、言語習得に関して両親が共通の意思を持つことが大切です。

子どもたちとは何語で話せば良いのか？

1. 多言語で生活していくにあたり、それぞれの家族がそれぞれにあった方法を見つけます。
2. 家庭において誰がどの言語で子どもと会話するか、両親で一緒に考えてみてください。
3. 子どもたちとは、心からわき出る言葉で話しましょう。心からわき出る言葉とは、あなたが物事を考えたり自然に表現したりするときに使う言葉です。
4. その言葉で、お子さんと話しをします。
5. 家庭外では、他の言語で話しても問題ありません。例えば、幼稚園の先生とドイツ語で話すような場合です。
6. 子どもたちの順調な学校生活ためには、ドイツ語を確実に理解し、ドイツ語で表現できることが重要です。そのためには、できるだけ早い段階でドイツ語にふれることをお勧めします。幼稚園、友達との遊びの場、スポーツクラブ、あるいは公園などは、よい機会です。
7. 子どもたちには、世界中のどの言語にも敬意をもつべきこと、そして自身の環境にある多言語は、自身と家族にとって、とても重要であることを伝えましょう。

子どもたちは、問題なく複数の言語を同時に学べます。年齢が低いほど、多言語を同時に学ぶことは容易です。3歳から4歳の子どもたちは、2つ目の言語を全く問題なく学ぶことができます。大切なことは、ある一定の期間以上、その言語を十分に用いることです。

ドイツ語習得には、ドイツ語を使用する幼稚園への通園で十分です。週5日、できれば一日最低4時間は幼稚園で過ごすことをお勧めします。遅くとも3歳にはなったら幼稚園に通い始めるのが良いでしょう。

言語習得にあたり多言語であるという事は問題ではありません。もし、子ど

もたちが母語を習得するにあたり問題があれば、小児科医へ相談することをお勧めします。言語習得の目安は2歳で50語以上の単語を身につけ、短い文を話せることです。

言語を混ぜて話していても、心配しなくて大丈夫です。多言語環境における子どもたちはしばしばそれらの言語を混ぜて話します。ある言語で不明な単語があれば、もうひとつの言語からその単語をもってきます。間違った文法で話すこともあります。

例: あなたのベッドでシュラーフェンする?





両方の言語の理解が深まれば言語のミックスはなくなります。あなた自身は、二つの言語を混ぜないようにしてください。お子さんが言語を混ぜて話したときには、言い直してあげましょう。

**例：ママ、このアウトーちようだい。→
ママ、この車ちようだい。**

あなた自身のドイツ語が未熟でも、お子さんのドイツ語の習得を助けることができます。あなたが他の人々とドイツ語で話しているところをお子さんが聞くのはとても大切なことです。そこからお子さんは、その土地の言葉を使用することは重要なのだと学びます。あなた自身がドイツ語を十分に話すことができるのなら、「ドイツ語の時間」を取り

入れてみると言いでしょう。例えば、本をドイツ語で読み聞かせる、ドイツ語のレシピ本と一緒に料理をしてみる、などです。

言語習得に、テレビを見せることだけでは不十分です。テレビでは、子どもたちは主に画像をみるので、確実には聞いていないのです。また画面の中の言葉はあまりにも速く、子どもたちは一方的に見聞きするだけで一方通行です。食事、着替え、遊び、本を読むなどにおいて会話が子どもたちの言語習得を助けます。

あなた自身がお子さんと一緒にテレビを見るとときには、その内容について話し合うことをお勧めします。そうすることで、よりテレビの内容を理解でき、結果的に言語習得に役立ちます。

本の読み聞かせは言語習得の大きな助けになります。子どもたちと絵本を読むことをお勧めします。それを通して単語や文章を自然に学ぶことができます。また、子どもたちが自分の思いを表現する機会をたくさんつくってあげてください。話すことの良い練習の場になります。使う本は、ドイツ語の本でもあなたの母語の本でもどちらでもかまいません。

あなた自身にとって、あなたの母語とドイツ語、どちらも大切だということを、お子さんに伝えてください。あなた自身が、子どもたちのお手本です！あなた自身が母語とドイツ語の両方を話すのをみていれば、子どもたちも同じようにしたいと思うでしょう。たとえばあなたのドイツ語が未熟でも、買い物、幼稚園の送迎の際など、積極的にドイツ語で話してみてください。

またあなたの母語を使用する集まりに行ったり、同じ言語を使う家族などと家族ぐるみで接するのも良いでしょう。特に、日常生活で、子どもたちがあなた自身の母国語を聞く機会がない場合にはとても重要です。

両親の母国語をあまり話さず、ほとんどドイツ語だけを話す子どもたちもいます。このようなケースは、両親がドイツ語を十分に話すことができ、友達にもドイツ人が多い場合に、よくみられます。これは全く問題ありません。それでもあなた自身が子どもたちと、あなたの母語で話し続けることが重要です。子どもたちは、あなたの話す言葉を聞き、これを覚えています。この事は将来的に大きな助けになるでしょう。例えばあなたの母国を訪れた時や、その言語を使用する友達ができるときに、その言葉でコミュニケーションができるはずです。

多言語の家庭において一家庭内のルール

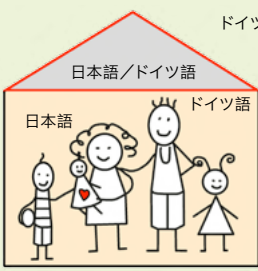
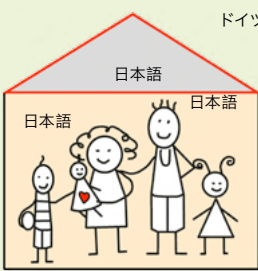
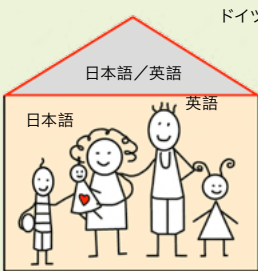

家庭内で、誰がどの言語で子どもと話しをするか？

家庭内で、また家庭外で子どもたちと誰がどの言語で話すか、家庭内において家族皆で話すときにどの言語で話すか、についてルールが確立していると、子どもたちにとって、多言語習得が容易になるでしょう。

あなた自身が家の外ではお子さんとドイツ語、または母国語のどちらで話をしていても問題ではありません。ただあな

たのドイツ語が未熟な場合、できるだけ多く、ネイティブスピーカーのドイツ語に接する機会をもつことをお勧めします。そのことは、あなた自身にとっても、あなたの子どもたちにとってもドイツ語の習得に役立つでしょう。

よいルール例

<p>ドイツ語</p> 	<p>ひとりヶ国語</p> <p>母は日本語を話し、父はドイツ語を話す</p> <p>家の外: その国の言葉 (ドイツ語)</p> <p>家族の言語: 両親の母国語 (ここでは、日本語あるいはドイツ語)</p>
<p>ドイツ語</p> 	<p>家庭内で一ヶ国語 家の外で一ヶ国語</p> <p>母と父は日本語を話す</p> <p>家の外: その国の言葉 (ドイツ語)</p> <p>家族の言語: 両親の母国語 (日本語)</p>
<p>ドイツ語</p> 	<p>家庭内で二ヶ国語 家の外でもう一つの言語</p> <p>母は日本語を話し、父は英語を話す。</p> <p>家の外: その国の言葉 (ドイツ語)</p> <p>家族の言語: 両親の母国語 (日本語か英語)</p>
<p>ドイツ語</p> 	<p>家庭内で三ヶ国語 家の外でもう一つの言語</p> <p>母は日本語を話し、父は韓国語を話す。</p> <p>家の外: その国の言葉 (ドイツ語)</p> <p>家族の言語: 両親の母国語以外の言語 (英語) かその国の言葉 (ドイツ語)</p>

それぞれの家族が、どの言語をどの場面で使用するかはっきりさせておくことが多言語の環境には重要です。当冊子でお伝えしたヒントは、多言語の環境における不安を取り除く助けとなるでしょう。多言語性に関して、ご質問のある方は、個人的にも相談にのります (+49 6221 651641-0)。

ZEL-Heidelbergでは、多言語性、言語習得、言語学習というテーマで定期

的にご両親を対象としたワークショップを開催しています。また、ご要望があれば幼稚園や学校などで、これらのテーマでワークショップを、また、教職員に対して、多言語性というテーマで教員研修を行います。

それ以外の情報については、www.zel-heidelberg.de をご参照ください。

引用文献

ドイツ語

Abdelilah-Bauer, Barbara (2012): Zweisprachig aufwachsen: Herausforderung und Chance für Kinder, Eltern und Erzieher. C.H.Beck Verlag; Auflage: 2.

Villis- Leist, Anja (2008): Elternratgeber Zweisprachigkeit - Informationen & Tipps zur zweisprachigen Entwicklung und Erziehung von Kindern. Stauffenburg Verlag.

英語

Baker, Colin (2014): A Parents' and Teachers' Guide to Bilingualism. Channel View Publications Ltd; Auflage: 4.

Bourgogne, Annika (2013): Be Bilingual - Practical Ideas for Multilingual Families. (eBook)



ZEL-Zentrum für Entwicklung und Lernen, Heidelberg
Dr. Dipl.-Psych. Anke Buschmann
Kaiserstr. 36
69115 Heidelberg
Telefon +49 6221 6516410
info@zel-heidelberg.de
www.zel-heidelberg.de



Günter Reimann-Dubbers Stiftung
Postfach 251331
69080 Heidelberg
www.guenter-reimann-dubbers-stiftung.de

Gestaltung & Layout
YELLOWGREEN UG (www.yellow-green.de)

Fotos
Titelbild: Gert Engelmann, www.fotolia.de (@Robert Kneschke)